

## 感染状況

- 10月16日以降、新規陽性者数前週増加比は概ね1を超過した状態が続き、また、26日以降、前週同曜日増加比も1を超過。感染拡大兆候探知の指標となる20・30代の新規陽性者数7日間移動平均前日比も1を超過した状態が続いている。陽性率は10月下旬より増加が続き、18.8%（11/7時点）。陽性者登録センターにおける自己検査登録者数も増加傾向にある。（他府県においても、北海道や首都圏が府より先行して感染拡大が続いている）
- オミクロン株の亜系統が複数確認されており、一部の国では検出数の増加（BQ.1.1系統：欧州・アメリカ、XBB系統：シンガポール・インド 等）が見られるが、府では、ゲノム解析上、亜系統の増加はあまり見られない（ただし、ゲノム解析は、陽性判明から結果判明までタイムラグ有）。また、他国ではBA.5系統での再拡大も見られる。
- 人流は、年末年始並みの高水準を維持した状態が続いている。
- ワクチンの3回目接種の割合は、全年齢では約6割であり、30代以下では5割を下回っている。4回目接種は65歳以上で74.7%、オミクロン株対応ワクチン接種は全年齢で4.7%。
- なお、現時点において、府における季節性インフルエンザの流行は確認されていない。

<アドバイザーボード専門家意見（第101回押谷先生・鈴木先生・西浦先生・脇田先生提出資料3-9より一部抜粋）>

## ①新型コロナウイルス感染症について

- ・今後も国外の流行状況に大きな影響を受けつつ、国内の流行が左右されるものと予測
- ・国内において、ワクチン接種に由来する免疫や過去の感染による免疫をもつ者が大多数であるため、今後流行するウイルスは、これらの免疫を逃避する優位性を兼ね備えたウイルスである可能性が高い。
- ・SARS-CoV-2が流行を起こし得るような感受性人口の特徴（サイズや密度、空間・年齢分布）は今後数年間を通じて決定づけられていくものと考えられる。感受性集団のプールは抗原性の進化（つまり、新たな変異ウイルスの発生）により極端に増加することが考えられる。また、ワクチンや自然感染によって獲得された免疫が減弱していくことによっても感受性集団の増加が起こる。
- ・自然感染およびワクチン接種により獲得した免疫の減弱が流行拡大の要因となるが、（略）人口全体のワクチンの接種率が高まれば、流行の抑制と重症者数、死亡者数の抑制に寄与することが期待。

## ②季節性インフルエンザについて

- ・今秋～冬に、インフルエンザの一定程度の流行を認める可能性が高い。
- （要因①諸外国でのインフルエンザ流行と国際的な人の移動の回復 ②国内における接触機会の回復 ③人口の抗体保有状況 ④ワクチンの接種率とワクチン株と流行株の抗原性の一致）

⇒2020年10月から2023年3月の半年間に新たなCOVID-19の流行拡大と、季節性インフルエンザの流行が発生する可能性は極めて高い。

## 入院・療養状況

- 病床（重症病床及び軽症中等症病床）使用率は、10月下旬以降増加し、11月6日、大阪モデルにおける「警戒」（黄信号点灯）への移行目安である20%を超過。宿泊療養施設居室使用率も増加。
- 第七波（10月30日判明時点）の重症化率・死亡率は、第六波を下回った状態が続いている。

## 今後の対応方針について

- 現時点において、新規陽性者数は増加傾向が見られ、**感染拡大傾向にある**。  
感染拡大兆候探知の目安となる20・30代新規陽性者数7日間移動平均前日比も1を超過した状態が続いており、**当面、感染拡大傾向が続く可能性がある**。  
**行楽シーズンを迎え、人と人の接触機会が増加する一方、気温の低下により換気がなされにくくなる中で、今後の急激な増加に注意する必要がある**。  
また、新規陽性者数の増加に伴い、**病床使用率も増加しており、11月6日に、大阪モデルの「警戒」（黄信号点灯）の移行目安を満たした**。当面、**病床使用率の増加傾向が続く可能性がある**。
- 現時点においては、季節性インフルエンザの流行は確認されていないものの、**今秋冬は、第七波を上回る新型コロナウイルス感染症の大規模な感染拡大と、季節性インフルエンザの同時流行（府推計：新型コロナ 約31000人 季節性インフルエンザ 約23,000人 計54,000人）が想定されることから、今の段階から、第八波に向け、事前の備えや対策が必要である**。
- 府民においては、**新型コロナやインフルエンザのワクチン接種の検討、自主的な感染防止対策（基本的な感染予防対策、有症状時は登校・出社など外出を控えるなど）の徹底、薬やコロナ検査キット、食料品の備蓄、体調不良時における受診の流れや相談窓口の事前の確認など、発熱など体調不良時への「備え」と「対策」が求められる**。  
  
また、府としては、第八波に備え、**発熱外来の強化や軽症中等症病床のさらなる確保、自宅療養支援の強化など、感染規模を踏まえた医療・療養体制の強化を図るとともに、オミクロン株の特性を踏まえ、高齢者と小児対策に重点化した対策を講じていく**。